



富士フィルムグループは、2004年より社外からの多角的なご意見・ご指摘を受け、CSRの各課題の認識を深めてきました。2007年のダイアログでは、これまで取り上げられた課題の中から、重要な課題と認識している3テーマに絞り、議論を進めました。今回は社外の有識者に加え、富士フィルムと富士ゼロックスの社員が活発に対話できる形式にしました。

ダイアログの結果から両社のCSRの取り組みを知り、両社それぞれの共通の課題を認識することができました。今後は、課題の解決のために具体的な取り組みへと結び付け、グループ内のシナジー効果の創出を目指します。

本報告書では今回のダイアログから得られた取り組みべき方向性や、昨年の「ステークホルダー・ダイアログ2006」で抽出されたCSR課題への対応状況もご紹介します。今後も報告書などを通じて取り組みの進捗などを継続的に開示し、社内の取り組みをステークホルダーの皆様に分かっていただくことで、CSR活動の進化と深化につなげていきたいと考えています。

話し合われたテーマ

- 第1セッション

「環境負荷削減 — 製品のCO₂削減」
- 第2セッション

「これからの働き方 — ワークライフバランス」
- 第3セッション

「生物多様性」



河口さん



谷口さん



藤井さん



川北さん

開催概要

開催日 2007年5月11日(金)
 会場 東京ミッドタウン本社
 参加者 富士フィルムホールディングス、富士フィルム、富士ゼロックスから46名

社外の方 (50音順)
 河口 真理子さん (2006年に続き出席)
 ㈱大和総研 経営戦略研究部 主任研究員

谷口 正次さん
 資源・環境ジャーナリスト

藤井 敏彦さん (2005年、2006年に続き出席)
 経済産業省 通商機構部 参事官

ファシリテーター
 川北 秀人さん
 IHOE
 [人と組織と地球のための国際研究所] 代表

ダイアログを終えて、これから取り組むべき方向性

- 全体**
 - 富士フィルム、富士ゼロックス両社の優れた事例の見える化
 - 富士フィルム、富士ゼロックス両社によるテーマごとの分科会などの実施
 - ダイアログの継続的開催
- 環境負荷削減**
 - 取り組みや効果の見える化
 - お客様との接点の強い環境側面(製品使用時のCO₂削減など)への取り組みの推進
 - 営業とのコラボレーションによる販売戦略への取り込み
 - 富士フィルムと富士ゼロックスの分科会の実施
- これからの働き方**
 - 事例の見える化
 - 「ワークライフバランス」の前提となる「基本的な考え方」の設定と整理
 - 「ワークライフバランス」への認識を広める
- 生物多様性**
 - 富士フィルムグループの中期計画への反映
 - CSR調達の推進

「ステークホルダー・ダイアログを終えて」

IHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表 川北 秀人

2007年のダイアログは、最も身近なステークホルダーである富士フィルムと富士ゼロックスという2つのグループ内主要企業同士が、共通のテーマで取り組みや課題を話し合い、そこに社外から質問やコメントを加えるという、初めての形式とした。異なる強みを持つ2つの主要企業によって構成されるグループとして、最大の相乗効果(シナジー)を生むためには、CSRへの取り組みは、最適な切り口だといえる。今回は、両社のシナジーを促すきっかけとして開催したため、次の機会までに具体的な成果が現れることを、心から期待している。

●「環境負荷削減 — 製品のCO₂削減」について

両社の取り組みの紹介の中では、特に富士フィルムの医療関連機器が、処理の高速化と環境負荷の削減を同時に実現していたことが印象深い。富士ゼロックスでも、顧客にエコソリューションを提供する取り組みが始まっている。このように、「使用時における環境負荷削減を通じて、顧客や社会にどれだけ貢献しているか」を、今後のレポートやウェブサイトに明確に示すことが重要なポイントであることが確認できた。

●「これからの働き方 — ワークライフバランス」について

制度の充実と同時に社内の雰囲気も徐々に変化しつつある中で、藤井氏も指摘したとおり「日本に本社を置く会社」としての視野を超えた取り組みを促すためには、全社共通の制度を設けるだけでなく「ワークライフバランスによるメリットや独自の小さな工夫」を共有する事例集の作成や、各部署の現状や特性に応じた進め方(例えば「会議は4時までには終了特区」と宣言するなど)を促すことも重要だと感じた。

●「生物多様性」について

今回は、各担当における生物多様性との接点を書き出す作業までしか行えなかったが、今後は、全社共通の基本原則を明示し、各部署における積極的な取り組みを促すことの重要性が確認できた。

「ステークホルダー・ダイアログを終えて」

富士フィルムホールディングス 執行役員 CSR推進管掌(当時) 内山 敬幸



今回のダイアログから、富士フィルムと富士ゼロックスがCSRの各課題について相互理解を深め、協同して取り組むことがグループ全体の企業価値の向上に結び付くことを改めて認識しました。今後は両者のCSRシナジーを高める機会を積極的に設けていきたいと考えています。また、今後のダイアログでは、研究開発部門、営業販売部門、製造部門など、国内・海外のグループ会社からさらに多くの参加者を募ることを検討してまいります。

昨年のステークホルダー・ダイアログ2006で抽出されたCSR課題への対応状況

課題	
テーマ	事業の成長と環境負荷抑制への取り組み CSR調達への取り組み 人的多様性への取り組み
明らかになった課題	1. 人的多様性やCSR調達についての明確なコミットメント 2. CSR調達や環境施策についての積極的なアライアンスの実施 3. 「ワークライフバランス」への可視化されたボトムアップ策の実施 4. 階層別(コーポレート・カンパニー・ディビジョン)の重点目標の明確化
対応	
全般	● 階層別の重点目標の明確化 ● 人的多様性やCSR調達についての明確なコミットメント
社内	● グループ役職者向けのコンプライアンス教育の実施 (P.41) ● 女性社員活躍のための「F-POWERプロジェクト推進チーム」の立ち上げ (P.59) ● 障がい者雇用の促進
社外	● 取引先への説明会及び企業環境グリーン度調査(CSRの取り組みも含む)の実施 (P.56) ● バルブの調達基準の制定・運用開始 (P.56)